

平成28年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	肝炎研究基盤整備事業			担当部局庁	健康局			作成責任者	
事業開始年度	平成21年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	がん・疾病対策課肝炎対策推進室			小野 俊樹	
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	肝炎対策基本法 第18条第1項及び第2項			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、高齢社会対策、子ども・若者育成支援、少子化社会対策、男女共同参画			主要経費	社会保障				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	肝炎についての研究は、各地の研究施設等において行われているが、それぞれ独自に行われ、研究の重複や必要な研究への取組不足などの問題が生じていることから、国立感染症研究所において、研究の方向性の調整、研究成果の情報収集・解析・公開、研究者の育成を行う。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	国立感染症研究所において、研究成果の情報収集・解析・公開、研究者の育成等を行う。 ・ウイルス肝炎データベースの構築 ・若手研究者育成研修の実施 ・肝炎に関する研究情報収集及び研究者や専門医を対象として情報の発信								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	30	29	29	29	29		
	執行額	30	29	28					
	執行率(%)		100%	100%	97%				
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	前年度以上 注:28年度は最終年度ではないが、前年度を超える実績を目標としていることから28年度としている。	若手研究者育成研修受講者の研究論文作成数	成果実績	件	19	13	10	-	-
			目標値	件	18	19	13	-	10
			達成度	%	106	68	77	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	前年度以上 注:28年度は最終年度ではないが、前年度を超える実績を目標としていることから28年度としている。	ウイルス肝炎データベースの収集論文数	成果実績	件	4,636	6,737	5,577	-	-
			目標値	件	3,936	4,636	6,737	-	5,577
			達成度	%	118	145	83	-	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	ウイルス肝炎データベースの運用	活動実績	件	3	4	3	-		
		当初見込み	件	3	3	3	3		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	肝炎ウイルスセミナーの開催	活動実績	回	5	7	6	-		
		当初見込み	回	5	5	5	5		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト = X / Y	単位当たりコスト	円	4,620,000	3,159,000	4,212,000	4,212,000		
	X:「平成〇年度の補助金(実際の執行額)」 Y:「平成〇年度のデータベースの運用数」	計算式	X/Y	13,860,000/3	12,636,000/4	12,636,000/3	12,636,000/3		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	単位当たりコスト = X / Y	単位当たりコスト	円	3,234,000	2,399,571	2,741,167	2,743,333		
	X:「平成〇年度の補助金(実際の執行額)」 Y:「平成〇年度の肝炎ウイルスセミナーの開催数」	計算式	X/Y	16,170,000/5	16,797,000/7	16,447,000/6	16,460,000/6		

平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由	
	諸謝金	0	0		
	委員等旅費	1	1		
	社会保障関係情報化業務 庁費	28	28		
計	29	29			

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	I-5 感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること								
	施策	I-5-1 感染症の発生・まん延の防止を図ること								
	政策評価	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 28 年度
			都道府県における肝炎対策に関する計画の策定数	実績値	件	47	47	47	-	-
				目標値	件	47	47	47	-	47
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	国立感染症研究所において、肝疾患に関する研究の方向性の調整、研究成果の情報収集・解析・公開、研究者の育成を行うことにより、研究基盤を整備することで、肝炎研究分野の推進が図られ、肝炎の発生・まん延の防止に繋がる。									
	改革項目	分野:	-		-					
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-			
達成度	%	-	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	肝炎研究成果の情報収集・解析、研究者の育成等を行い、研究基盤を整備することで、肝炎研究の促進を図り、成果を国民に還元することが出来る。また本事業の実施に当たっては、国費の投入が必要不可欠である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は我が国の肝炎研究の推進を図るための基盤整備を行うものであり、肝炎研究10カ年戦略の中で我が国の肝炎研究の中核的機関として位置づけられている国立感染症研究所で事業を実施することは適当である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	研究成果の情報収集・解析や研究者の育成等を行うとともに、研究基盤の整備を通じ、肝炎研究の推進を図るものであり、極めて優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	△	予算決算及び会計令により認められている少額随意契約を除き、一般競争入札を行っている。 なお、一者応札となった契約については、入札公告期間を確保する等の取組により、解消に努めることとする。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	必要最低限の経費のみ計上しており、コストの水準は妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	事業の実施に必要な支出を行うにあたり、実情を勘案し支出を行っている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	研究機器や若手研究者の育成に係る経費等、真に必要な費目・使途に限定されている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業実施にあたっては、不断の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	前年度は下回ったが、一定数を維持している。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	各地の研究施設等で独自に行うよりも一元的に事業を実施することで、効率的な事業運営が出来ている。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	セミナーの開催回数等見込以上の実績をあげている。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	肝炎ウイルスセミナーやデータベース等の活用により肝炎研究の着実かつ効率的な推進が図られている。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	-	-	-			
	-	-	-			
	-	-	-			
点検・改善結果	点検結果	若手研究者の育成及びデータベースの構築・運用や肝炎ウイルスセミナーの開催においては目標に適った一定の実績を保ち続けている。さらに、例年の予算計上及び執行状況から、より効率的・効果的な予算の執行を目指し、運用してきたといえる。				
	改善の方向性	引き続き、予算の効率的・効果的な執行に努め、研究の推進を図っていく。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	肝炎についての研究を効率的に推進していくために必要な事業であり、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	-					
備考						
-						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	144	平成23年度	122	平成24年度	97	
平成25年度	108	平成26年度	118	平成27年度	126	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省 28.4百万円

肝炎研究の基盤を整備するため、肝炎研究における中核的機関として役割を担わせるための予算の確保

↓ 支出委任

国立感染症研究所 28.4百万円

肝炎に関する研究成果の情報収集・解析・分析・公開、研究者の育成等

【国立感染症研究所】

A 国立感染症研究所	19.6百万円
人件費	19.6百万円

肝炎研究基盤整備事業にかかる非常勤職員

【一般競争入札】

B 民間会社(5社)	6.3百万円
ピッツ株式会社	2百万円
株式会社チヨダサイエン	2百万円
岩井化学薬品株式会社	2百万円
本道産業(株)	0.2百万円
(株)豊島製作所	0.1百万円

肝炎に関する研究成果の情報収集・公開等に必要な情報データベース構築及び研究用機器にかかる点検、修理保証

【随意契約(少額)等】

C 民間会社(16か所)	2.5百万円
(内訳)上位10社(者)	
株式会社チヨダサイエン	0.6百万円
株式会社シューエイ商行	0.6百万円
公益社団法人 日本アソートブ協会	0.5百万円
堀内電機株式会社	0.3百万円
デル株式会社	0.1百万円
丸善株式会社	0.1百万円
本道産業(株)	0.1百万円
株式会社オーエム	0.1百万円
(株)豊島製作所	0.0百万円
ヤマト運輸株式会社	0.0百万円

肝炎に関する研究者の育成に必要な資材等の調達

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.国立感染症研究所			B.ビッツ株式会社		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
人件費	賃金	19.6	雑役務費	研究情報データベース機能更新	2
計		19.6	計		2
C.株式会社チヨダサイエンス			D.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費	研究用機器にかかる点検等	0.6			
計		0.6	計		0

